

＼女性がもっと活躍できる地域社会を目指して／

キラッと★スマイル 八戸ナビ

29



なかむらはるな
中村晴菜さん(コーヒースタンドSAMENOKUCHI経営など)

「何をやってる人かと聞かれると答えに困ります」と話すほど、いろいろな顔を持つ中村さん。自分の「好きなこと」に正直で、真っすぐな中村さんにお話を伺いました。

地元が育てた「好きなこと」

通っていた小学校は農業体験が多く、育てた作物を地元の人に振る舞うことがよくありました。その経験から何かを「作る」ことが好きになり、お菓子を作って友達にあげたり、ハンドメイドのアクセサリを作ったりするようになりました。

一度市外で就職してから地元に戻ってきたときに、農家さんから「畑があるならやってみたら」と誘われたことをきっかけに、野菜作りを始めました。ありがたいことに、地元の方は、今も栽培方法や販売額の相場など幅広く教えてくれて、家族もサポートしてくれます。



野菜や米、ブルーベリーなどを道の駅なんごうに出荷しています

なんでも「自分でやってみたい」

農業を始めて1年目に、畑に植えたサツマイモを全てイノシシに食べられたことがきっかけで、狩猟免許を取得しました。今はシカやイノシシをわなで捕獲しており、猟銃で仕留められるようになるまでまだまだ訓練が必要ですが、いつか「八戸市鳥獣被害対策実施隊」として活躍している父のようになりたいです。

コーヒースタンドは、通年で「南郷らしい」商品を提供したい、新しい「こびりっこ」(農作業の合間に食べるおやつや、おやつを食べる時間)としてコーヒーと焼き菓子を提供したい、という思いから開業しました。



シカの角を削り出したアクセサリや、葉きょうをリサイクルして作ったマグネットなど、コーヒースタンドSAMENOKUCHIで販売中です

目標は「ほどほど」

凝り性なので、とことんやらないと気が済まないタイプです。八戸工業高等専門学校で土木建築を専攻していたので、コーヒースタンドの店の図面を書くのもこだわりましたし、メニュー表やパッケージなどのデザインも自分で考えました。

ただ、家族から「忙しくなりすぎて休みや楽しみがなくなって、自分を苦しめてはいけない」と言われるので、農業では、耕作面積を広げすぎたり、品種を増やしすぎたりしないように気を付け、コーヒースタンドは、農業が忙しい時期の営業日を減らしたり時間を短くしたりするなど、「ほどほど」を心がけていきたいと思っています。



営業日や時間などはこちら

農閑期となる冬期を中心に、こだわりのコーヒーの他、自家製ブルーベリーを使った焼き菓子などを販売しています

